

# 超低周波音を処理できる

## 防音扉について



生駒トンネル

高原トンネル

### 特徴

- 普通の防音扉の遮音性を RASK を張り付け強化
- 一定の割合で張り付ける事で、超低周波を防音可能
- コンクリート、鉄等、超低周波から防音性能を高めます

次ページに対策事例のデータを掲載

ラスクを一定量、生駒トンネル写真・高原トンネル写真の様に、防音扉に貼り付け、遮音性能を超低周波領域から高める事で、周囲への公害の影響をなくした事例です。

お問い合わせ先

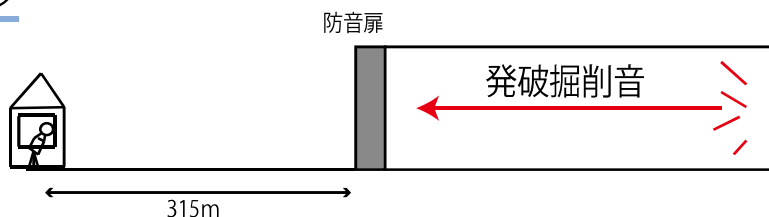
**SUISAKU**

有限会社スイサク  
大阪府堺市美原区小寺21-1  
TEL:072-363-3056

email : [info@suisaku.co.jp](mailto:info@suisaku.co.jp)  
web : <http://www.rask.co.jp>

# 対策事例測定データ

測定・測定場所 イメージ

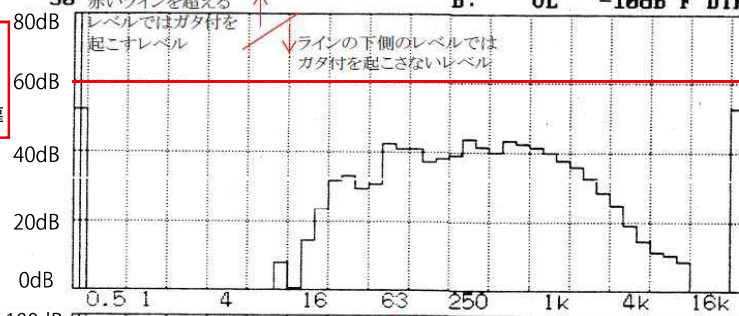


測定データ

[ current ] STRT[BAKUHA ON ]  
 AUTO 10ms FREE PSE EXP(T) A: FAST +10dB F DIR  
 30 赤いラインを超えるレベルではガタ付を起すレベル B: UL -10dB F DIR

1995/04/02 17:35

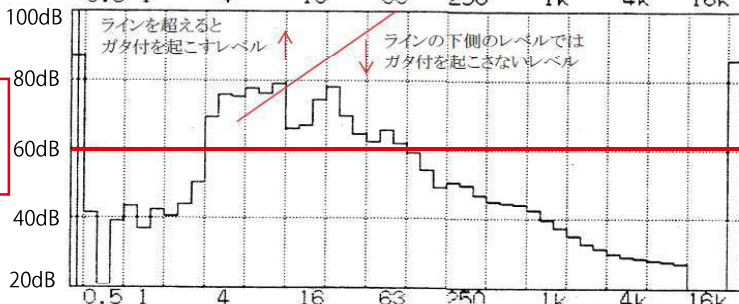
ラスクを貼り  
超低周波遮音  
対策をした防音扉



D1 1A P\_SPEC  
 MAIN AP  
**52.7dB [ R ]**  
 [ R ]

下記の防音扉にラスクを貼り  
低周波対策を行った時の  
測定データ

一般の  
トンネル用  
防音扉



D2 1B P\_SPEC  
 MAIN AP  
**87.7dB [ R ]**  
 [ R ]

通常の防音扉の  
測定データ  
(某メーカー製)

通常の防音扉で使用しているときに瓦などが落ち扉、ガラス窓に影響を与えた  
低周波騒音(低周波空気振動)の被害にあった坑口から315m  
離れた場所で測定したデータです。

図.1 ラスク・トンネル用防音扉と一般的なトンネル用防音扉の性能の違い

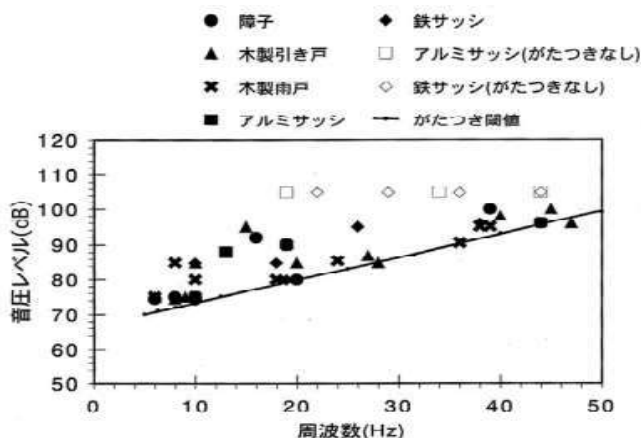


図.2 実験室内での実験結果 建具のがたつきが始まる最低音圧レベル

対象材、コンクリート・鉄等、材質を選ばず、相手材の吸音・遮音性能をラスクで高められるため、建築・工場でも応用用途が考えられます。

ラスクの特性については、スイサクホームページからダウンロードできます。

ご相談、測定・調査などは別途承りますので、お気軽にお問合せ下さい。  
 ※対応周波数以下の振動の影響、設置方法、使用環境によっては、お望みの結果が得られない場合があります。